会長挨拶

古賀 誠

全国道路利用者会議 会長

本日は大変ご多忙の中、大勢のご来賓の皆様にご出席いただき大変光栄に思います。心からお礼を申し上げたいと存じます。また、当会議の活動に対しまして、全国からご参集をいただきました会員の皆様には、日頃から大変なご協力とお力添えを賜わっております。心からご協力とご支援に対しまして御礼と感謝を申し上げる次第でございます。

当会議は回を重ね、68回目、平成最後の全国大会でもあります。そうした節目の年に素晴らしい伝統と文化、歴史を持つこの京都で開催することが出来ましたこと、開催にあたりご尽力をいただきました汐見町長をはじめ、実行委員会の方々、京都府、京都市、多くの皆さんに大変なご尽力により素晴らしい68回目の全国大会を開催することができましたことにもお礼と感謝を申し上げたいと存じます。誠にありがとうございました。

同時に今、道路整備事業に対する様々な課題につきましては、スローガンとして掲げさせていただいております。最も大事なのは今回の被災地の復旧と復興であることは申すまでもございません。生活道路から高規格幹線道路に至るまでしっかりした強固な国土を構築するためにも災害に負けない道路整備を進めていくことが必要であります。

道路事業を取り巻く環境は財源的にも極めて厳しいものがございます。道路特定財源が一般財源化され、早10年以上経過しております。道路整備の持続・安定的な促進は、安定した財源の確保なくして考えられません。年末の予算編成にあたりましては、公共事業費をはじめとする道路整備に必要な事業費の満額確保を、皆さんと一緒に全力を挙げて取り組んでいく必要があります。同時に安定的な道路財源、新しい道路財源の創設にも私どもは新たな歩みを始めていきたいと思います。全国道路利用者会議の68年目の全国大会を迎えるにあたり、新しい変化にも対応していかなければなりません。

今日は道路利用者として私どもが常にこれからもあるべき姿を共有させていただいております、トラック協会、バス協会、ハイヤー・タクシー連合会、3団体の皆さん方にもご出席をいただいております。この会議の組織的な強化にもご尽力を賜わっているところであります。しっかりとこうした利用者の皆さん方のご要望・ご要請を聞かせていただき、道路事業の促進に邁進してまいりたいと思いますので、皆さん方の特段のご協力とご支援を心から期待しお願いを申し上げたいと存じます。

開会挨拶・議長

井手町長

汐見明男

全国大会実行委員会 委員長

本日、全国道路利用者会議第68回全国大会が古賀会長をはじめ全国各地より会員の皆様、多数のご来賓のご臨席を賜り盛大に開催することができましたことに心より感謝を申し上げます。

また、ご来賓の皆様方には日頃から京都府内の道路整備の推進につきまして、暖かいお力添えを賜わっておりますことに、この機会をお借りして厚くお礼を申し上げます。

道路は経済の発展や地域の活性化、そして住民の生活の向上や防災対策等、多くの面で重要な役割を担っております。特にこの1年、これまでは考えられないような様々な自然災害が発生をし、全国各地で甚大な被害が起こっております。これらの災害を見た時に、ミッシングリンクの解消やダブルネットワークの構築等、道路整備が積極的に行われる所と行われていない所では、被害状況や復旧・復興に大きな差が生じております。

また、京都府では、昨年の4月に最北の京丹後市から最南の木津川市まで140㎞が高速道路で繋がりました。現在、新名神高速道路が平成35年度末の全線開通を受けて工事が着々と進んでおります。また、その周辺では企業が数多く立地をしておりまして、それぞれの街に活気が出てきているということであります。住民の安心・安全、地方創生の推進等、道路はなくてはならない物であると痛感をしているところであります。

しかし、そのなくてはならない道路予算でありますけれども、平成10年度をピークに年々減少をし、今のところは数年、下げ止まりとはなっているものの、ピーク時に比べ約1／2という状況であります。従って私どもの最も大きな課題は、いかにして道路関係予算を拡大をしていくかということになると思います。

これから古賀誠会長、佐藤信秋特別補佐を先頭に私ども全国道路利用者会議は、一致協力して道路関係予算の確保に努めてまいらなければならないと考えております。どうかご来場の皆様方には引き続いての力強いご支援を賜りますようによろしくお願いをいたします。

来賓挨拶

国土交通大臣代理

池田豊人

国土交通省道路局長

石井大臣からメッセージを預かってまいりましたので、私からお伝えさせていただきたいと思います。

今年も西日本を中心とする豪雨や北海道胆振東部地震など、全国各地において自然災害による甚大な被害が発生しました。国土交通省としましても、被災地の1日も早い復旧・復興に向けた道路整備を推進するなど「被災地の復旧・復興」に全力で取り組みたいと考えております。

さらに、災害時の重要インフラ機能確保に向け、幹線道路等におきまして、土砂災害による通行止めの危険性などの緊急点検を実施いたしまして、11月末を目途に対策を取りまとめてまいります。併せて、国土強靱化のための緊急対策を今後3年間で集中して講じてまいります。

また、国土交通省では、持続的な経済成長と豊かな国民生活を実現するための最重要課題として「生産性革命」に取り組んでおります。本年は、生産性革命「深化の年」と位置づけまして、これまで実施してきました個々の取組を更に強化しております。この中でも道路の渋滞対策は、生産性向上に向けて最も重要なものと認識をしております。

年間約280万人分の労働力に匹敵する経済損失が生じている渋滞の解消が喫緊の課題であります。これまでのETC2・0データの活用によるピンポイント対策に加えまして、今年度より全国道路利用者会議の皆様のお力をお借りして、トラック・バス・タクシーなど道路利用者の皆様からの意見を踏まえた、きめ細やかな渋滞対策を全国で展開をしていきたいと考えております。

また、道路の老朽化対策としましては、平成26年度から5年に1回の頻度での点検等に取り組んでまいりまして、今年度で点検が一巡いたします。今後は、効率的な点検手法の導入と早期の修繕実施に必要となる財源の確保に取り組んでまいりたいと考えております。

この様に道路整備や管理に対するニーズは年々増大しております。必要な道路予算を確保しなければなりません。

国土交通省といたしましても、本日ここにお集まりの道路利用者の皆様の幅広いご意見を賜りながら、ご支援をいただきながら、必要な道路の整備を着実に推進して参りますので、なおいっそうのご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

来賓挨拶

西脇隆俊

京都府知事

本日は古賀会長をはじめ、地方会議の皆様、またご来場の皆様を京都にお迎えいたしまして、全国道路利用者会議第68回全国大会がこの様に盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げたいと思います。

近年の高速道路の整備につきましては、若干立ち上がりが遅れましたが、先輩方の素晴らしい努力によりまして、ようやく平成27年度に京都縦貫自動車道が全通、昨年には新名神の一部区間の開通により、南北140㎞の背骨ができました。この効果というのは例えば、北部地域において利用率が非常に盛んだとか、京都舞鶴港の荷扱いが飛躍的に伸びているということで、効果が表れています。

南部に目を向けますと新名神高速道路は、平成35年に開通する予定で整備を進めていただいており、早くもそれを見越した企業立地がございますし、西日本で最大級のアウトレットモールの設置も決定しております。しかも今、非常にたくさんの企業から立地の要望がございますけれども、なかなか希望にあった様な用地を提供できないという、嬉しい悲鳴ではありますが、そういう状況でございます。

私の入省は道路局総務課で、国土交通省の道路局に身をおいておりました。あらためて故郷に戻りまして、道路整備の効果の大きさというものを現場で実感しているわけでございます。また、7月豪雨の災害では、北部地域においてたくさんの道路が寸断されました。災害対策の拠点となる役場や支所が孤立するという非常に大変な状況がおきました。これは逆に言えば、道路が災害時においては、緊急物資の輸送、その後の復旧・復興に極めて大きな役割を果たしているということだと思っておりますけれども、その整備もまだまだでございますし、何と言っても高速道路のミッシングリンクの解消や、暫定2車線区間の4車線化、どれもこれも必要なことばかりでございます。そのためには何と言っても道路財源の確保・拡充がどうしても必要でございます。

今日お集まりの皆様は、そういう思いを一つにしてお集まりだと思いますけれども、これからもそうした道路関係予算の拡充につきましては我々も皆さんも共々、努力をしてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いしたいと思っております。

来賓挨拶

門川大作

京都市長

皆さんようこそ京都へお越しいただきました。心から歓迎申し上げます。また、汐見実行委員長をはじめ開催にご尽力をいただきありがとうございました。国土交通省の池田局長をはじめ、皆さんお世話になっております。

初めての京都での開催であり、喜んでおります。68回目にして初めてというのも、いささか残念な話ですが、これから毎年とは言いませんが、度々開催して欲しいなと思います。

国立京都国際会館で開催する会議は必ず大成功する。21年前、人類史上初めての温室効果ガス排出抑制、京都議定書が誕生したのもこの場であります。この大会も大きな成果をあげて欲しいと思いますし、是非とも道路予算の拡充に向けて、皆様とともに頑張りたいと思います。

さて、今年は本当に地震、豪雨、台風、全国で様々な自然災害に見舞われました。同じようなことが千年前にもありました。そこで帝が二条城の南の神泉苑に66本の鉾を建てられました。66という数字は、当時の日本中の国の数であります。そして、日本中の犠牲者の鎮魂と復興への願いを込め、祇園の神を祀り災厄の除去を祈る祇園御霊会を行いました。これが、祇園祭のスタートであります。

当時、各地で災害がおこりましたが、10日後には、帝に情報が入ってきました。平安京は高度情報化社会だったのです。それを支えたのが道路網であります。

今、震災が起き様々な課題があります。そしてこのままでは、日本は人口減少で衰退していきます。こんな時はいかに道路網が大事なのか。来年1150回目の祇園祭、日本中が元気になる。政治も行政も「まつりごと」と言います。道路網と祇園祭、そうしたことも含めて取り組んでまいりたいと思っております。これは京都のお祭りだけではありません。日本全国津々浦々のお祭りがそのような願いをもった祭りだと思います。全国の皆さんとしっかりと連携して、私共も取り組んで参ります。

来賓挨拶

村田正治

京都府議会議長

全国道路利用者会議第68回全国大会が全国から多くのご参加のもと、ここ京都で盛大に開催されますことを地元京都府議会を代表いたしまして心からお慶びを申し上げます。

私は山間の生まれでございます。今年の豪雨や台風の際にも生活道路が通行困難になるなど、常に道路整備の必要性を感じてまいりました。

関西で申しますと現在全線開通に向けて着々と整備が進められております、新名神高速道路と名神高速道路のように、国土軸の複線化による災害時のリスク軽減や物流の更なる活性化等、道路整備が果たす役割は誠に大きくなると思っております。

一方で老朽化対策や耐震対策のように計画的な維持・管理も必要となっております。東日本大震災や熊本地震、また本年の豪雨や地震で被災された地域においては、インフラの早期復旧・復興が求められており、関係の皆様には、本日の全国大会を契機に相互の連携をより強めていただきますとともに、そうした全国の道路整備によってなお一層のご尽力を賜りますことをお願いを申し上げます。

京都府議会といたしましても皆様方と手を携え道路はじめ公共インフラの計画的な整備や維持管理に全力で取り組んでまいる所存であります。